

○**中山間地域**では担い手の減少などから**農地や農業の維持が厳しい状況**となっている。

○中山間地域の活性化を図るためには、農地の受け皿となる**集落営農組織の体制整備や運営力強化等の支援**が必要である。

○そこで、「**集落ビジョン**」の策定、及び「**集落ビジョン**」の実現に向けた支援を行った。

○その結果、①水稲「つや姫」の**収穫作業の共同化体制の整備**、②根深ネギ、ホオズキ、シンテッポウユリ、さつまいも「からゆたか」の**新規4品目が定着** 及び ③**集落ぐるみのイノシシ対策技術が他集落へ波及**
更に、**野菜を共同で栽培するため「石室野菜栽培省力化部会」を設立した。**

目標とする成果

普及指導員の活動

1. 農地の受け皿となる集落営農組織の体制整備

■水稲「つや姫」の収穫作業の共同化体制をつくった

■野菜を共同で栽培するため「石室野菜栽培省力化部会」を設立



2. 集落営農組織等で新規導入された品目数

■新規品目4品目が定着



根深ネギ さつまいも「からゆたか」 ホオズキ シンテッポウユリ

3. 組織間連携や広域連携で取り組む技術や品目の数

■集落ぐるみのイノシシ対策技術が他集落へ波及

【平成29年～30年】

■アンケート調査、先進地視察、ワークショップにより、「**集落ビジョン（石室集落の夢）**」を作成

【令和元年～】

■**集落ビジョン実現に向けた支援**

■水稲「つや姫」の共同化に向けた作付圃場の見える化等の支援

■新規品目の実証圃設置栽培マニュアル作成と研修会の開催

■組織間連携については課題の洗い出しや研修会を実施

普及員だからできたこと

○「集落ビジョン」の策定にあたっては、**ワークショップを経営主のみでなく、配偶者、後継者世代分けて行った**ことで集落全員の意見を反映でき、実現に向けた取組に繋がった。

○唐津市、農協、JAからつからなる「石室支援チーム」を立ち上げ、**関係機関一体となった活動**を展開した。

別紙

佐賀県

中山間地域で農地の受け皿となる集落営農の組織強化と 組織間・広域連携の推進

活動期間：平成 30～令和 4 年度

1. 取組の背景

農家の高齢化や米価下落等で生産意欲が減退するとともに、担い手の減少が深刻化しているため、集落営農組織による農地の維持について検討が進められている。しかし、中山間地域では棚田を中心とした作業条件の悪い水田が多く、集落単独で農地を維持することが困難な状況となっている。

そこで、唐津市鎮西町石室集落をモデル地区として、農地の受け皿となる集落営農組織の体制整備と運営強化支援を行った。また、集落単独では難しい労力確保等の課題に関しては、他組織間との広域連携を推進し、中山間地域の活性化に取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

（1）推進体制の整備

農業振興センター、唐津市、JA からつで支援チームを結成し、以下のとおり役割を分担して支援に取り組んでいる。

- ・東松浦農業振興センター上場普及課、普及課
：ビジョン策定・取組支援、新規品目取組支援、組織間連携推進
- ・東松浦農業振興センター農業企画課：補助事業の紹介
- ・唐津市：組織間連携推進会議の開催、ビジョン策定支援
- ・JA からつ：新規品目取組・販売支援

（2）集落ビジョンの策定

区長、生産組合長、中山間や鳥獣害対策協議会の代表者等で構成される「石室農業を考える会」を立ち上げ、石室支援チームが支援する形で取り組みを進めていった。

まず、集落の目指す方向性を決めるために、アンケート調査による集落の実態把握を行った。次に、集落代表者とともに先進地視察に行き、目指すべき集落のあり方について検討した。さらに、経営主、配偶者、後継者世代に分けてワークショップを開催し、集落全員の声を引き出した。

その結果、農業機械の共同化、共同経営のための所得向上等、9 項目 49 の取組内容で集落ビジョンをまとめることができた。

(3) 集落ビジョン実現に向けた支援

集落ビジョンの実現に向けて、主に3つの支援を実施している。

1) 農地の受け皿となる集落営農組織の育成

水稻の栽培管理作業を個別作業から共同作業へ移行するための支援を行っている。

まず、圃場の見える化を実施した。品種ごとに圃場を色分けし、生産者名と地番を記載した地図を作成した。この地図を使うことで、班分けや刈り取り順などの協議をスムーズに進めることができた。

次に、圃場の作業性や安全性等の条件に応じた利用料金を設定する目的で、圃場の評価を行った。県農業試験研究センターで開発された手法を用い、評価を実施した。評価のぶれをなくすため、評価の初日にはオペレーターと普及センターで目合わせを行った。複数年の評価を行い、作業料金に反映させる予定である。



図1 圃場評価の目合わせ

道路の 条件	トラックや機械の搬入が容易にできる 機械の搬入が難しい (危険を伴う または 小さいコンバインでないと入れない) 機械を搬入できる道がない	
圃場の 形状	ほぼ整形（四角形） 2～3辺がほぼ直線（三角形を含む） 不整形（1辺がほぼ直線を含む）	☐
圃場の 乾湿	乾田 圃場の一部が湿田（圃場の一部で機械が回りこむ） 湿田（機械が回りこむ）	☐ ☐ ☐

気になることがあれば記載してください

図2 圃場評価チェックシート

2) 儲かる農業実践のための新規品目取組支援

所得向上や共同経営の運営資金確保に向けて、新規栽培品目の検討と定着の支援を行っている。

年2品目ずつ計10品目の試作を行い、中山間に適した品目の検討を行った。また、新規栽培者向け研修会や管内の露地栽培拡大に向けた振興大会等で作付け推進を図っている。

R4年度は、これまでに定着した4品目（さつまいも「からゆたか」、根深ネ



図3 栽培講習会

ぎ、ホオズキ、シンテッポウユリ）の拡大に向けて、栽培管理や販売の検討に加え営農試算等を充実させる計画である。

3) 組織間連携の推進

1 集落や1組織では解決できない問題を、組織間で協力して解決するため、農家の代表者を含めた組織間連携推進会議を開催した。会議では、機械を共同利用する際の課題やドローンによる共同防除等について検討した。

また、他県の優良事例を学ぶため、組織間連携に係る研修会を開催した。

さらに、石室集落のイノシシ対策を他集落へ波及させる取り組みを行った。



図4 組織間・広域連携取組推

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 農地の受け皿となる集落営農組織の育成

水稻の収穫を個別作業から共同作業へとシフトすることができた。

圃場の評価についてはR4年現在進行中で、今年度まで圃場評価を行い利用料金の検討を行う計画である。

(2) 儲かる農業実践のための新規品目取組支援

新規品目については、4品目が定着した。シンテッポウユリ、ホオズキ、カンショ「からゆたか」については栽培者数が拡大した。根深ネギについては石室野菜栽培省力化部会が設立され、非農家を含めた共同栽培（共同経営）の取り組みが開始された。



図5 ホオズキ栽培の様子



図6 根深ネギ栽培の様子

(3) 組織間連携の推進

組織間連携については、石室集落で取り組まれている集落ぐるみのイノシシ対策技術を他集落へ波及することができた。

また、ドローンによる共同防除については、今年度に1集落で導入予定で

あり、将来的には共同防除による組織間連携へと繋げていく予定である。

4. 農家等からの評価・コメント

(鎮西町石室M氏)

支援チームに入っていただき、集落ビジョンを作ることができた。研修会では鳥獣害対策のポイントやイノシシの解体方法等の勉強もでき、集落ぐるみの取り組みが続いている。今後は都市部との交流にもチャレンジし、集落をより活性化していきたい。

(鎮西町石室N氏)

本格的に農業に携わるのは初めてで、栽培方法や注意点、機械の導入等、分からないことも多かったが、その都度助言をいただき、順調に根深ネギ栽培が進んでいる。また共同作業にしたことで、互いに意見を出し合い気づきも多い。今後はさらに面積を拡大して、集落みんなで頑張っていきたい。

5. 普及指導員のコメント

(東松浦農業振興センター・主査・牧野宏美)

はじめに集落全員の意見を引き出し、ビジョンを作成したことで、それぞれの取り組みを計画的に進めることができた。また、石室集落を引っ張るリーダーを中心に、集落みんなが意欲的に活動に参加できている。今後は引き続き関係機関と連携して集落を支援するとともに、石室集落をモデルとした中山間地農業の振興に取り組みたい。

6. 現状・今後の展開等

(1) 農地の受け皿となる集落営農組織の育成

集落ビジョンの実現について、進捗状況の確認とあわせて「集落の AtoZ」作成等を通して、集落としての方向性や集落の良さについて再認識を図る。

また、水稻の共同作業の拡大に向けた検討を行う。

さらに、今年度設立した「石室野菜栽培省力化部会」の活動支援を行う。

(2) 儲かる農業実践のための新規品目取組支援

各品目、作型分散や育苗方法、品種等の検討を行い、導入・規模拡大促進を図る。

(3) 集落営農の組織間・広域連携取組の推進

農業機械の組織間・地域間連携を進めるための体制整備に取り組む。